

中間市の未来への道 2

地域の課題とまちづくりを考える

2024/02/19

北九州市立大学大学院マネジメント研究科

松永裕己

matsu@kitakyu-u.ac.jp

前回のおさらい

地域政策の大転換

・ 第一次全国総合開発計画 (1962)

・ 第二次全国総合開発計画 (1969)

・ 第三次全国総合開発計画 (1977)

・ 第四次全国総合開発計画 (1987)

----- 大きな転換

・ 国土のグランドデザイン (1998)

----- 抜本的制度変更

・ 国土形成計画 (2008)

・ **地方創生 (2014)**

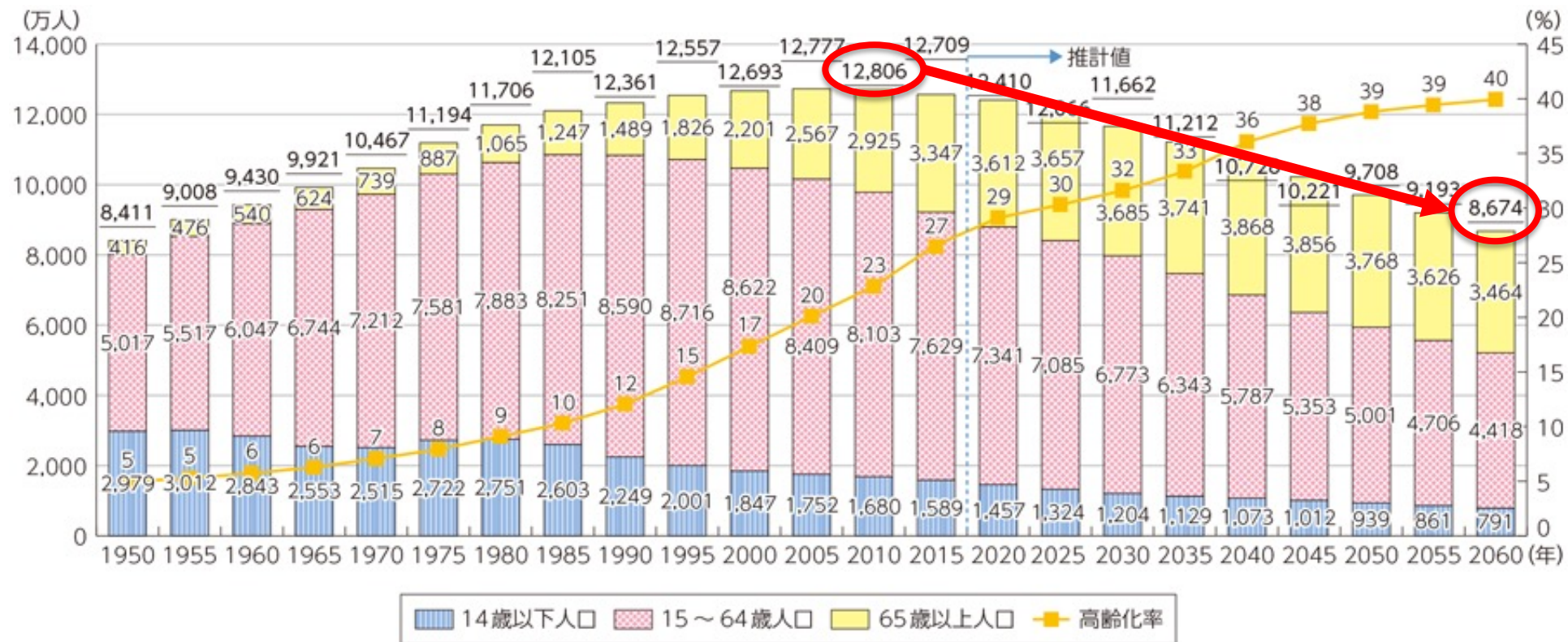
・ 第二次国土形成計画 (2015)

地域間の格差是正を重視
中央集権的な分散化政策



地域間格差是正の後退
地域の主体性の重視

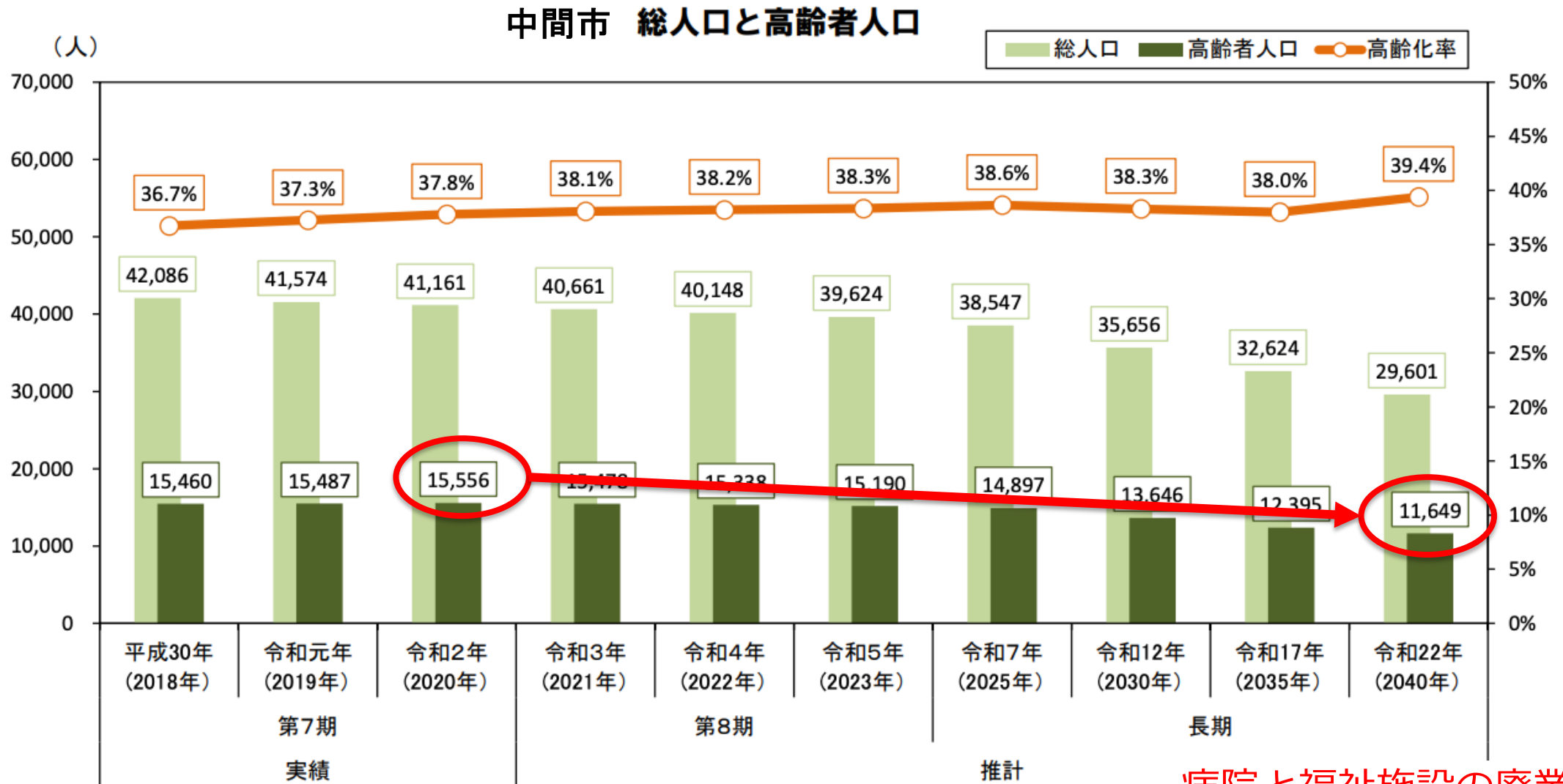
日本の人口推移



<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc135230.html>

日本の人口そのものが減少を続ける

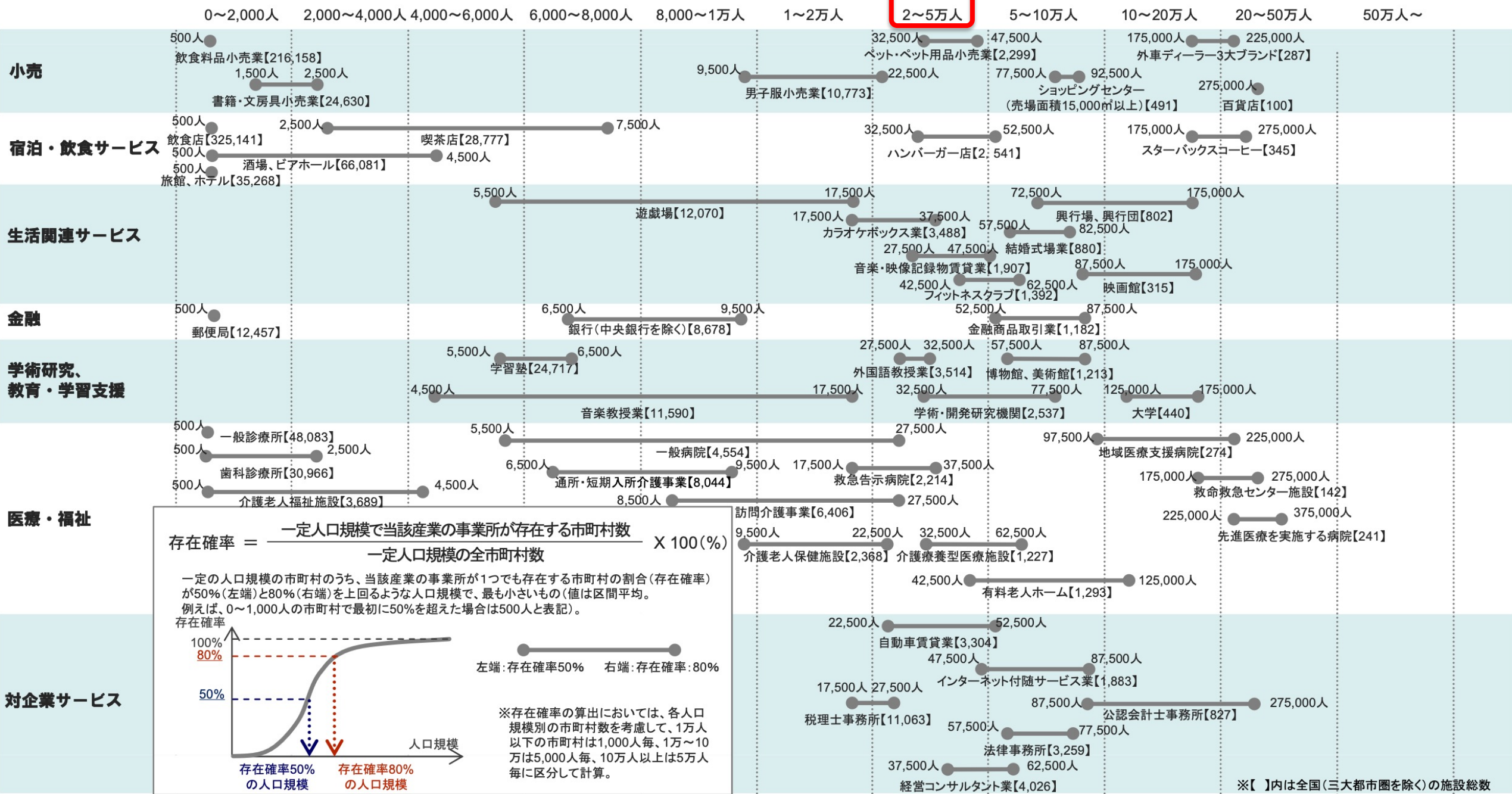
実は中間市の高齢者人口は既に減りはじめています



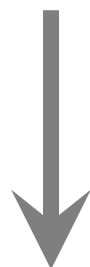
病院と福祉施設の廃業増加？

サービス施設の立地確率50%~80%となる自治体の人口規模

中間市：約4万人→3万人へ

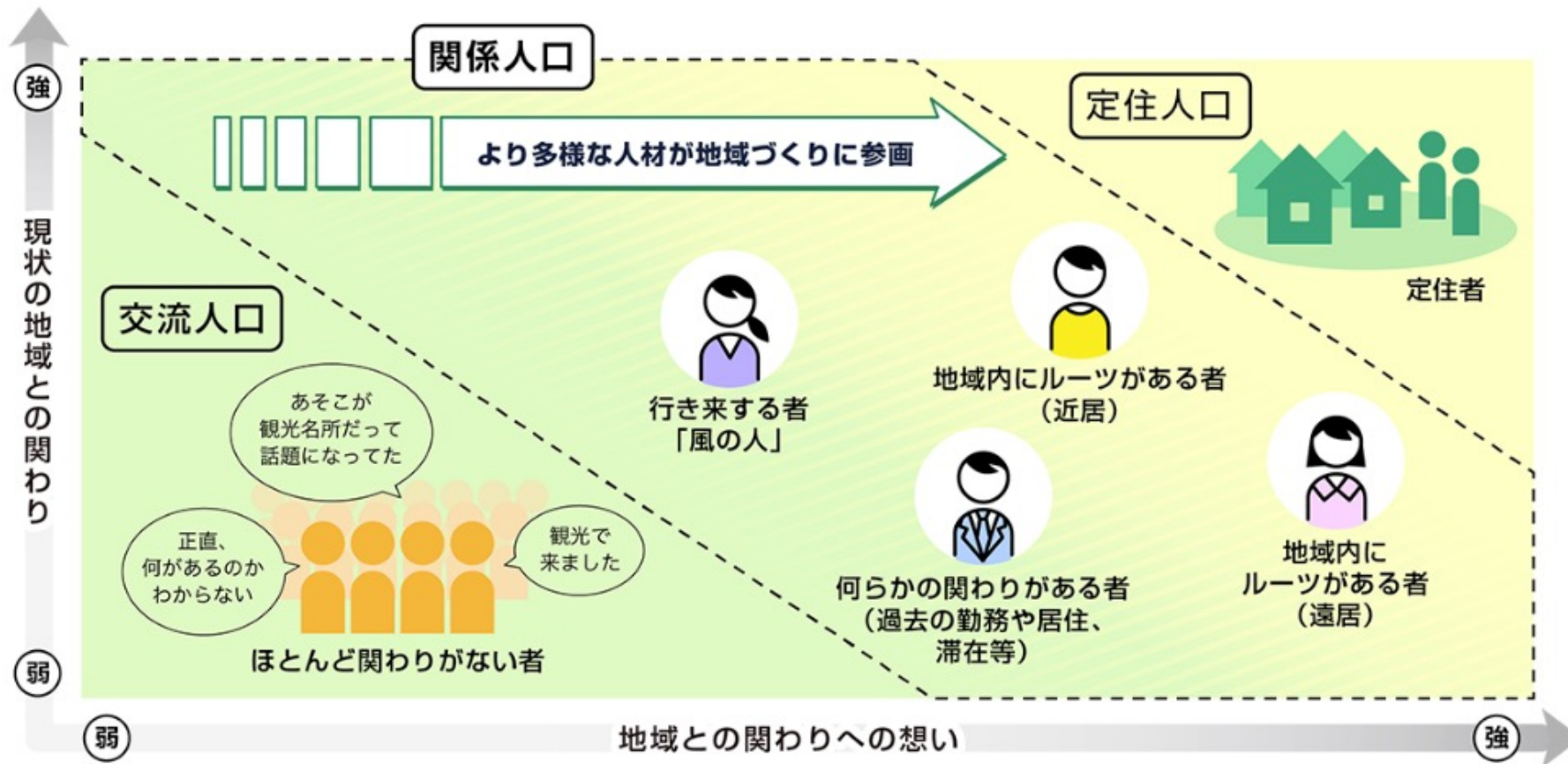


地方創生策では地方の人口は増えない



地域の独自性、地域の主体性が必要だが、
人口減の加速でまちづくりの担い手も減少

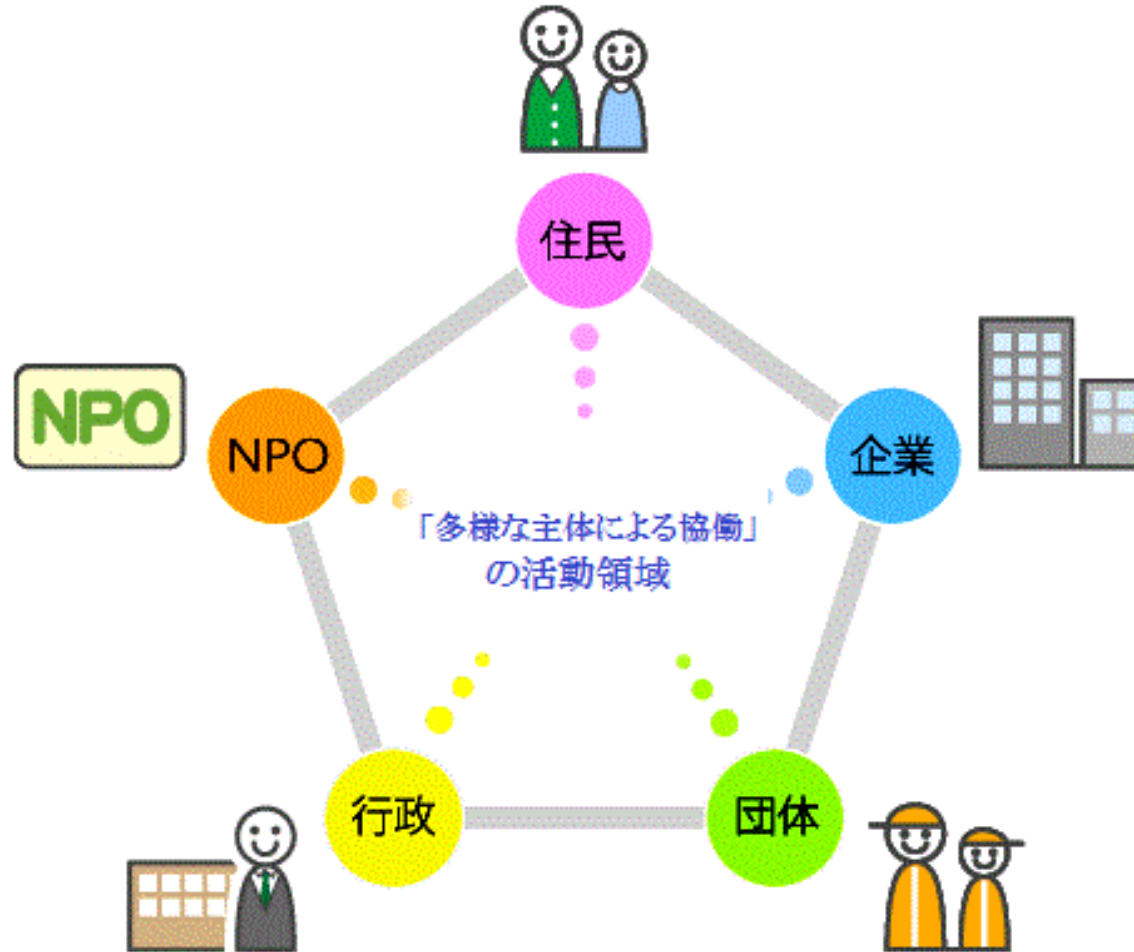
2つの関係人口：地域内の関係人口に着目する



内なる関係人口とは：
地域に住み、地域に関心を持ち、地域活動を行う人。
協働や新しい公共の主体。

外なる関係人口と内なる関係人口があるのでは？
海士町の最大の成功は「内なる関係人口」の増加

協働による新しい地域政策、地域づくり



内なる関係人口とは：

地域に住み、地域に関心を持ち、地域活動を行う人。
協働や新しい公共の主体。

地域づくりは行政だけではできない時代へ。公共はもはや行政だけでは担えない。

中間市の課題を考える

せっかくなのでまずは自己紹介しましょう

1. 名前（できればニックネーム）
2. やってる仕事とか活動とか
3. 好きな食べもの

1分間、熱く語ってください！

聞いた人に「家に帰ったらそれ食べよう！」って思わせたい！

今日みんなで考えたいこと

地域活性化したい

地域づくりが大事



どうなったら地域活性化？

何したら地域づくり？

みんなそう言うけれど…

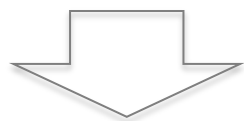
教えてください

あなたが思う「中間市の課題」とは？

課題とは、誰かがそれで困っている状況です。

- ・ 誰が困っているのでしょうか？
- ・ なぜ困っているのでしょうか？
- ・ どのように困っているのでしょうか？

班で出た「中間市の課題」を解決するには
どうしたらいいでしょう？



班で1つ課題を選んで、
解決のアイデアを出してみましよう。

中間市の未来を考える

また、考えてみましょう

最近うれしかったことは？

それにはどんな人が関わっていましたか？

他にも関連のある人はいませんか？

これから関わりそうな人はいませんか？

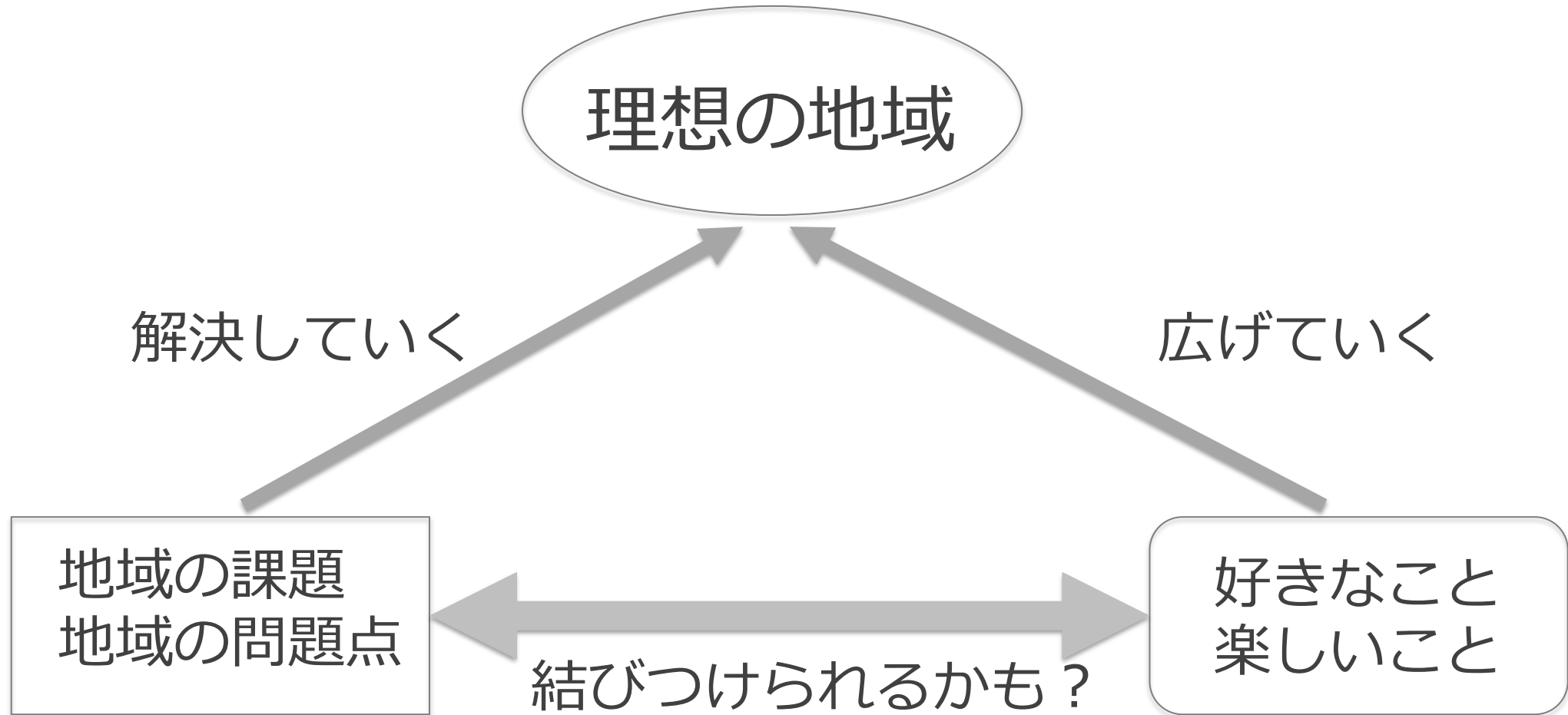
それが連鎖したら、何が起きそうですか？

また、考えてみましょう

最近うれしかったことは？

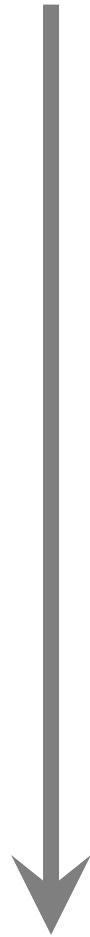
自分がうれしいことや楽しいことが、
地域をより良くするのにつながらないだろうか？

地域を良くする2つのアプローチ



20世紀型まちづくりから新しいまちづくりへ そこでの地域活動のコツ

地域政策の大転換と地域づくりの変化



・ 第一次全国総合開発計画 (1962)

・ 第二次全国総合開発計画 (1969)

・ 第三次全国総合開発計画 (1977)

・ 第四次全国総合開発計画 (1987)

----- 大きな転換

・ 国土のグランドデザイン (1998)

----- 抜本的制度変更

・ 国土形成計画 (2008)

・ 地方創生 (2014)

・ 第二次国土形成計画 (2015)

国の政策の補完としての地域づくり or 対抗運動としての地域づくり

- ・ 一村一品運動 (1980年代)

対抗軸無き時代の地域づくり

- ・ ゆるキャラブーム
- ・ B1グランプリブーム

迷走？ 発展？

2000年代後半から
交流人口目的のイベント増

「20世紀型まちづくり」から「新しいまちづくり」へ

20世紀型まちづくり

国を頂点とする意思決定

官（行政）主導

全国画一的な取り組み

「専門性」の重視

「計画性」の重視

「量的成果」の重視

専門性、計画、数値が
だめなわけではなく、
それが目的化＝形式化
している問題点

新しいまちづくり

地域ごとの意思決定

公（協働）主導

地域特性を活かした取り組み

参加者の重視

創発性の重視

質的成果の重視

一箱古本市（とほほん市）の経験から



- ・ 市民が古本を持ち寄り販売
- ・ 商店街の店の軒先を借りて行う
- ・ 本のリサイクル
- ・ 本の楽しさを広める
- ・ 出店料500円



第3回とほほん市
(2010年3月28日)



第3回さんぽガーデン
とほほん市

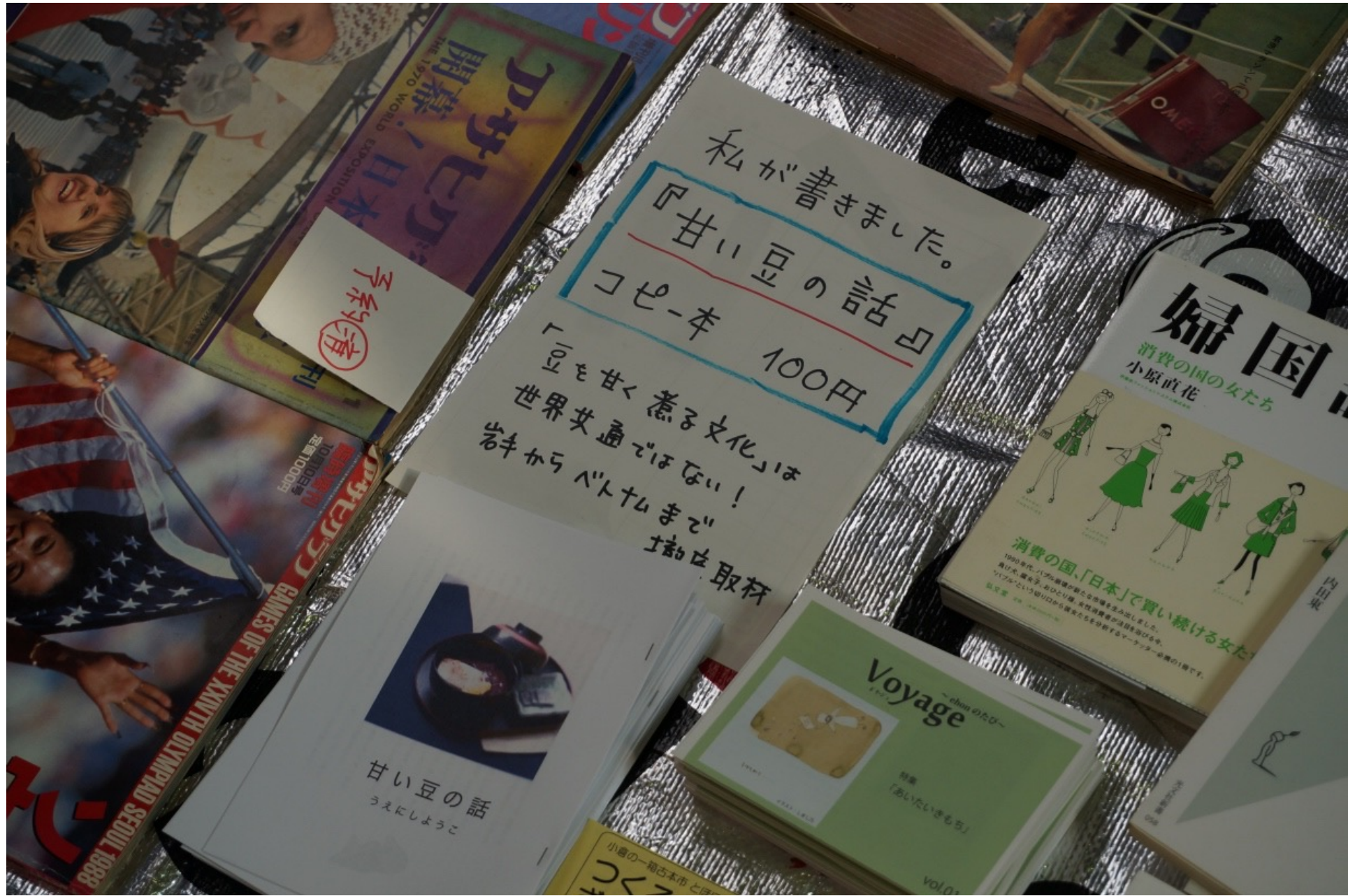
日時: 2010年3月28日(日) 11:00~16:00
場所: 京町筋天狗 (京町筋500-100)

お家にある本を
一箱分つめ込んで
きた古本屋まで

立体的な並べ方



お手製の本を販売



好きなことや得意なことに関係人口をつくる

【北九州の現状と課題】

文化面での弱さ/
アピール不足

中心市街地の空洞化

歩行者の減少による
にぎわいの不足

「環境首都」と
市民感覚の乖離

全国的な情報発信の弱さ



商店街と連携した
市民参加型一箱古本市
(とほほん市) の実施

「徒歩」で「本」でにぎわいづくり

【期待される成果】

本を通じた文化振興

商店街との連携による
中心市街地の活性化

街歩きのきっかけづくり

市民目線の
環境活動促進

地域内外への
情報発信

好きなことや得意なことに関係人口をつくる

とほほん市：これまでに十数回実施

実績

- 出店数 : 25店舗～35店舗
- 売上点数 : 500冊～800冊程度
- 売上総額 : 10万円～20万円程度
- 京町マップの作成
- 他事業へのノウハウの移転

楽しさ

- 本を通じた関係ができる
- 街に居場所ができる
- お小遣いが稼げる
- 経験したことない役割ができる

2020年からは文学館と京町銀天街に移譲して、継続中

高校生マイプロジェクトアワードの経験から



高校生マイプロジェクト

高校生が身の回りの課題や関心に沿ったプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ、探究型学習プログラム

写真は西日本から集まった高校生の合宿の様子

初めて出会った高校生4人が、大学生・社会人（各1名）とチームを組み、触発し合いながら自分のプロジェクトを創る合宿。

1.00



新しいまちづくりのコツ

① 「お客さま」をつくらない

参加者 = 消費者から、参加者 = 生産者への転換

すべての参加者に役割を与えることによる主体性の涵養

② 「入れ替え可能性」を担保する

役割の固定化を防ぎ、参入のハードルを低くする

参加者の能力発揮可能性を広げるための入れ替え可能性

新しいまちづくりのコツ①

出店者用に
イス準備しましょう！

出店者のみなさんに
熱いコーヒーをサービス！

日差しがあるので、
テントを用意しましょう！



とほほん市実行委員

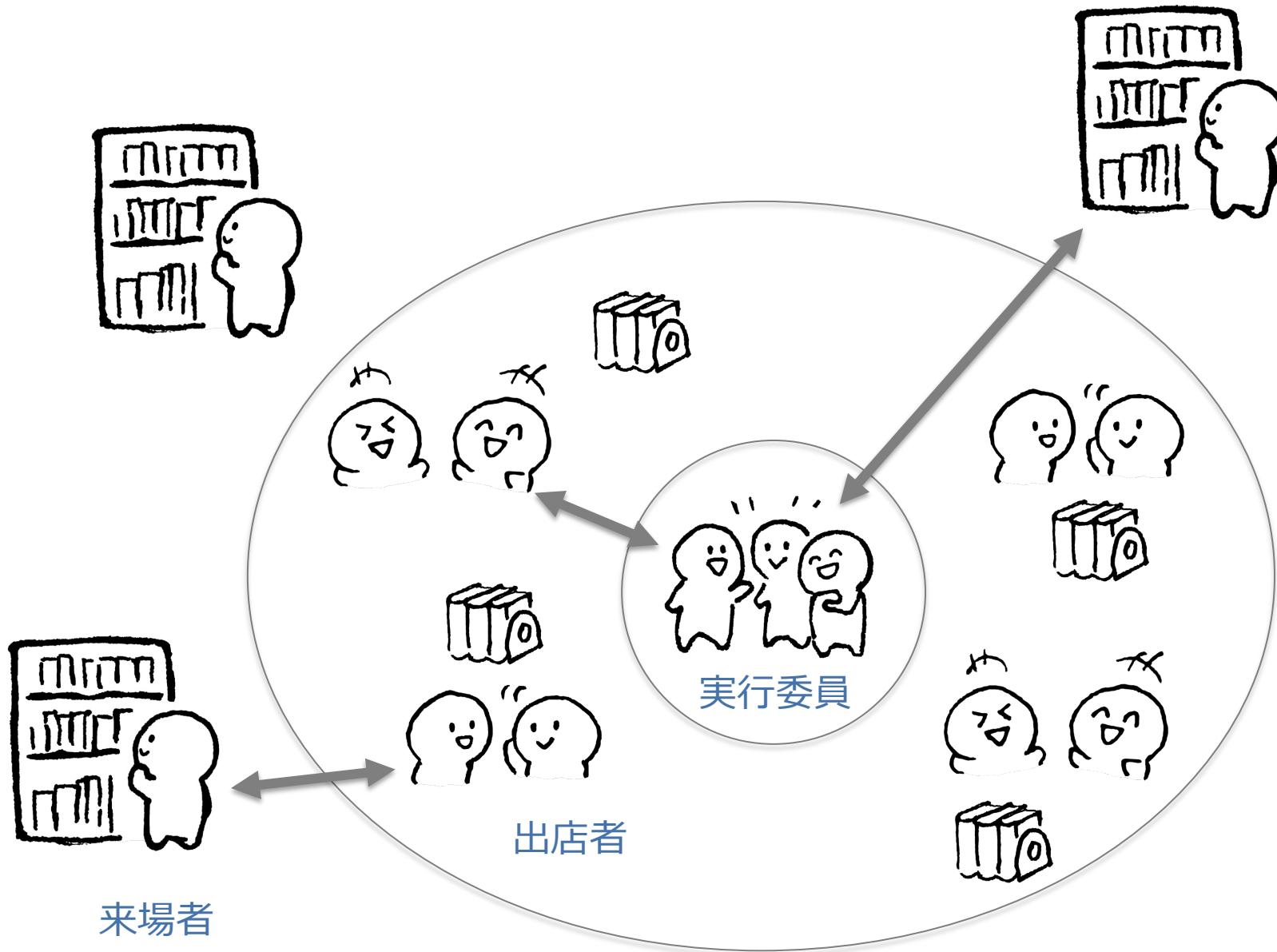


出店者を「仲間」にしたいのに…
お膳立てしすぎると「お客さま」になってしまう

隣の出店者と助け合った方が楽しい
してもらうより工夫する方が楽しい
人の役に立った感がある方が楽しい

このような「場」をつくるのが大事
お客さまをつくらないシステム

新しいまちづくりのコツ②



実行委員と出店者と来店者の
「入れ替え可能性」をつくる



役割を固定化しない
コミュニティを固定化しない

これからのまちづくりキーワード

- たのしさ
- かるやかさ
- しなやかさ

「20世紀型まちづくり」から「新しいまちづくり」へ

20世紀型まちづくり

国を頂点とする意思決定

官（行政）主導

全国画一的な取り組み

「専門性」の重視

「計画性」の重視

「量的成果」の重視

専門性、計画、数値が
だめなわけではなく、
それが目的化＝形式化
している問題点

新しいまちづくり

地域ごとの意思決定

公（協働）主導

地域特性を活かした取り組み

参加者の重視

創発性の重視

質的成果の重視

- お客さまをつくらない
- 入れ替え可能性をつくる

前回と今回のまとめ

- 地域振興を国に頼る時代は終わった。
- 地域活動の担い手を育てることが何より重要。
- 「地域内の関係人口」はまだまだ増加できる。
- 地域イベントそのものではなく、イベントの先に何を創るかが大事。
- 「教育」は地域づくりにとって重要な資源であり手段である。
- 地域づくりのコツは①お客様を作らない、②入れ替え可能性を担保すること。
- 大事にしたい「たのしさ」「かるやかさ」「しなやかさ」
- 地域には眠っている底力がある。